骨折治療 ストレス軽減

ネオメディカル 創外固定器を小型化

【さいたま】ネオメディカル（埼玉県三郷市、田中和彰社長、０４８・９６０・０８４１）は、新方式の骨折治療器を開発し発売した。従来方式と比べ、患者のＱＯＬ（生活の質）が大幅に高まり、リハビリの開始時期も早められるという。整形外科学会への出展などで認知度を高め、普及を図る。基本セット価格は８万１２００円。当面、全国各地の病院など数百施設への納入を目指す。

骨折治療器「ＩＣＨＩＦＩＸＡＴＯＲシステム」は、骨折部分の骨折線をまたぐように刺したピンを創外（体外）で折り曲げて、固定器でつないで固定する仕組み。固定器は縦横が10ミリ×６―８ミリメートル、厚さが２・６ミリ―３ミリメートルと小さく、特に手の骨折手術に向く。

順天堂大学付属浦安病院の市原理司・手外科センター副センター長のアイデアを同社が製品化した。

従来の創外固定手術では大がかりな固定器が欠かせず、患者に多大な負荷やストレスがかかっていた。

新方式を用いると、患者のＱＯＬが向上し、リハビリの開始時期に加えて機能回復についても早期化が図れる。

ネオメディカルのコンパクトな骨折治療器